

2023年(令和5年)10月25日 水曜日

# 飛騨市の地酒、飲み比べて

飛騨市にそとつ三つの老舗蔵元を巡る「飛騨三蔵まいり」が11月3日、同市で始まる。三つの蔵元の銘柄を味わいながら飛騨の風情に浸る催しで来年1月15日まで行い、三つの酒蔵を楽しむための特典が付いた「御酒飲帳」が25日から販売される。(一川哲志)

同市には、神岡町に「神代」を銘柄とする大坪酒造店、古川町に「白真弓」の蒲酒造場と「蓬萊」の渡辺酒造店がある。いずれも古い歴史があり、地酒は暮らしや産業、伝統文化に欠かせず、広く親しまれている。地域の活力の一つとなっている地酒の魅力を伝え、楽しみ方をさらに知ってもらおうと、実行委員会がイベントを企画した。

初日の11月3日は午前10時から午後4時まで、同市古川町の飛騨の匠文化館前に大坪酒造店が出張酒蔵を

## 来月3日から「三蔵まいり」



飛騨三蔵まいりをPRする(右から)大坪和己社長、蒲敦子社長、渡辺久憲社長＝飛騨市古川町

設け、近くにある同町の蒲酒造場と渡辺酒造店の酒蔵を巡り、それぞれの銘柄を飲み比べる。同4日からは各蔵元を会場に行う。同3日には飛騨古川まつり広場でマルシェが催され、三つの蔵元の酒を使った酒まんじゅうと酒プリンが販売される。三つの蔵元を巡る際に特別蔵酒を試飲するための「記念おちよこ」と協力飲食店の割引があるクーポンが付いた「御酒飲帳」を、25日から前売りとして三つ

## 特典付き「御酒飲帳」を販売

の蔵元と飛騨古川まつり会館で9000円で販売する。全蔵元を回るとクーポンが使える。

御酒飲帳は11月3日以降、同町で来年1月15日開催予定の「三蔵まいり」の当日まで千円で販売され、記念おちよこやクーポンも同日まで使える。

さらに、三つの蔵元の本酒をブレンドした「飛騨三蔵まいり記念限定酒」を339本、11月3日から同市内の酒販店などで販売する。購入には御酒飲帳が必要で、御酒飲帳を1部購入すると限定酒が1本購入できる。限定酒の売り上げの一部は環境保全のため、同市の池ヶ原湿原自然保護センターと天生原立自然公園協議会に寄付する。

大坪酒造店の大坪和己社長、蒲酒造場の蒲敦子社長、渡辺酒造店の渡辺久憲社長は「多くの方に来ていただきたい」と話す。問い合わせは市観光協会、電話0577(74)1192。